



時空を超えたひとり居酒屋
青ちょうちん



木星人
mokuseizinn

第1話 むらおこしを考えている役場の若い衆

ひとりなんだけどいいかな
いいに決まってるじゃないか ひとりしか入れないんだから
マスターメニューは
そんな洒落たものはない 俺が客を見て勝手に作るんだ
何だあそりゃあ

疲れた顔してるな
そうなんだよ 何か冷たいの飲みたいな
じゃ まずこれでも飲めんでみな
黒糖焼酎に漬け込んだ梅で作った梅酒だ 5年ものだけ ぐいっと飲んでみろ
きりっと冷えてんだろ 体の芯から火照ってるのが消えてくぞ
おお 美味しいわ本当に

ところでどうしたんだい
まちおこしのアイデアを出せって言われた いいアイデアが浮かんでこないんだ
それでここへ来たのか まちおこしてどうすんだよ
たくさん人呼んで まちがもっと潤うようにだつてさ
ふうん

真っ赤に熟した冷たいトマトでも食べや そこにある岩塩をちょっと吹っかけてな
どうだ美味いだろ もっと体が冷えてきたんじゃねえか
それから今度は焼きトマトだ 外側はこんがり 中はジューシーってやつだな
そうそう トマトの上にはオリーブ油が塗ってあって薄くスライスしたアーモンドが散りばめて
あるんだ
梅酒もう一杯いってみるか

トマトも料理の仕方でいろいろ変わるな
なんだか落ち着いてきたよ
冷やしトマトも焼きトマトもこんなに美味しいとは思わなかった

そりゃそうよ 何もトマトだけじゃねえぞ なんでもそうよ
むらおこしかなんか知らねえが むらにあるもの何でもいいから思い浮かべてそれに味付けして
みたらどうだ
たとえば いつも突っ立ってる電信柱にアートな味付けしちゃうとか つまり電信柱をキャンバ
スにしているんな

絵を描いちゃうとかな 絵は募集するんだ まち中にある看板の表現をもっとあったかいものに変えちゃうとかな

アイデアなんてお前 ひとつのものを 横から見たり上から見たりひっくり返したり何かくっけたり していくうちに

ふっと出てくることがあるんだよ トマト食べて考えな

第2話 3丁目かどの柴犬

一犬なんだけどいいかな

いいよ誰だって入っていいよ その代わり一犬しか入れないぞ
椅子はいらねえな

三丁目かどの柴公じゃないか どうしたい

はあはあ言って辛そうだな その水飲みな 井戸の冷たい水だ

美味い美味い 水のくせにとろみがあるわ

腹減っちゃったんだ 何か食わせておくれ

いつもドッグフードばかりで飽きたよ

そうかいつも同じものばかりじゃ飽きるかもな

でも食べられるだけ幸せじゃねえか なあ柴公

それは言えるなマスター

味噌汁のぶっかけご飯でもこさえてやるか

ありがたい それが食べたかった

いわしで出汁とった大根と大根の葉っぱの味噌汁だ ご飯は炊き立てだ

出汁とったいわしも入れといたぞ 大根は裏の畑でさっき抜いてきたばかりのやつだ

そりゃありがたい ぐにゃってなってるけどやっぱりいわしは美味いわな

大根の葉っぱがいい味出してるな 味噌は薄味の合わせ味噌だな

そんなことまでわかるのか

梅干ないか

梅干好きなのか 犬のくせに変わってるな

マスター犬にもいろいろあるんだよ 人には言えねえ考え事や悩み事がな

そりゃ悪かったごめんよ みんな同じと思った俺がいけなかった 勘弁しておくれ

お詫びにほんのり甘味のある紀州の梅干をぶっかけご飯に付けてやるからな

ところで悩みって何だ

二つある

一つ目は 散歩のときに俺の大好きな黒柴のみーちゃんのいる家の前に来ると俺の主人が

ここの犬は吠えてばかりでうるさいからって 首輪をぐいっと引っ張って家に近づけさせないよ
うにするんだ

お互いに好きなんだから吠え合ってるのに全然分かってくれない！っていうか分かってと努力し

ない

二つ目は たまにはこんな美味しい味噌汁ぶっかけご飯を食わせてほしい

そうかなるほどな なかなか人の心と犬の心は分からねえもんだな

第3話 むらの六地藏様たち

地藏だが 入れるか六人いるが
えっ 六人ちょっと無理かも
でもいつも六人一緒だから離れられないんだ 何とかならないか
あっそうか六地藏さんだからな そりゃ仕方ねえな 入れや
椅子はいらねえな 詰めて入ってくれ
大丈夫だ いつも立ってて慣れてるからな

ところでこんな夜中にどうした よくここまで歩いてこれたな
たまにはほかのところに行ってみたくなった 青ちょうちんが薄気味悪くて入ってみた
立ってるとつらいことがある
何がつらいんだ
犬が木と間違えてしっこかけていく
この間 車の角が肩にぶつかって少し欠けちゃった
赤い帽子が風に飛ばされたぞ
供え物がかけらばかりで元はどんなもんか一体全体さっぱり分からん

いつもおんなじところにいるから大変だな
でも どこぞのばあ様がおめえたちを洗ってたの見たことあるぞ
そうよ やさしいばあ様のおかげで 今日まで六人離れ離れにならずにこれたのよ
ばあ様だけじゃない じい様もいる

うれしいことだな
供え物もいろいろあっていいじゃないか
そうじゃない あることはあるが皿が散っちゃいんで料理を丸ごとのつけてくれないし
第一あれじゃ腹の足しにならない
だから今夜は 全体の料理ってどんなものか腹いっぱい気の済むまで味わってみたい
そうそう 飲み物もだいたい決まってる六人ともいつも同じなんで情けない
たまにはバラエティにいろんな物のんでみたい

地藏様も結構大変な家業だな
家業じゃないが一応天職だ
その辺はよく分かんねえが まあせっかく来たんだゆっくりしていきな
ゆっくりしたいが夜明け前には帰らないとただの石ころになっちゃうんだ
じゃあ 急がないとな
後は俺に任せな

まずは飲みもんだな

六種類のカクテルだ 地蔵様にカクテルは誰も供えないだろ きっと

一地蔵さんには ソルティドッグだ

二地蔵さんには マティーニでどうよ

三地蔵さんには スクリュードライバーがいいぞ

五地蔵さんには ギムレットがぴったりだ

六地蔵さんには ミモザが似合うな

辛かったり 甘かったり さわやかだったり 色も綺麗で美味しいだろ

何が入ってんだ水の中に

確かにさわやかと言える

生き返るう

この世のものとは思えない

水より美味しい

綺麗な色なのに衝撃的だ

後は六人で鍋でもつつきな

これはすき焼き鍋だ

春菊 しいたけ 長ねぎ 糸こんにゃく 牛肉だ シンプルだが最高の鍋だ

だし汁は昆布だしが一番だ

おっと もうちょっと待てそのうちふつつつしてくるからな そしたら箸で好きなものにとって

溶き卵に通して食ってみな

美味しいだろ 熱いから気おつけろ 舌がやけどするぞ

石だからやけどはしないわ

熱いけど美味しいな こんな美味しいもの人間は食べてんのか 羨ましい

来てよかった 青ちょうちんがカクテルに見えてきた

まずいっ 夜が明けそうだ みんな帰ろうぜ

マスターご馳走さん ありがと

また百年後に来たら来るからな 待っててくれ

百年後か 分かった分かった 必ず来いよ

店はいつでも開いているからな

足元気をつけて帰れよ

